

第 21 回（令和 3 年度第 2 回）学校運営協議会議事録

日時 令和 3 年 10 月 21 日（木） 15：45～17：00
Web 会議

出席者 （敬称略）

【委員】

- 内川 隆 （本校同窓会長）
- 大石 進 （桐蔭横浜大学スポーツ健康政策学部客員教授）
- 佐々井 正泰 （横浜市青葉区保健センターこども家庭支援課長）
- 鈴木 秀幸 （青葉区大場町在住）
- 竹下 恭子 （横浜市立市ヶ尾中学校長）
- 西村 明展 （青葉区鴨志田町在住）
- 横澤 孝泰 （あおば支援学校長）
- 佐藤 弘之 （本校校長）

（欠席者）

- 飯島 正徳 （東京都市大学知識工学部教授）
- 高篠 直江 （本校 PTA 会長）

【事務局】

- 米田 朋正 （本校副校長）
- 伊藤 育生 （同 教頭）
- 檜垣 桜子 （同 事務長）
- 諸岡 丈幸 （同 学校運営協議会担当）
- 大矢 真 （同 学校運営協議会担当）
- 齋藤 真 （同 学校運営協議会担当）

【本校各グループリーダー】

- 吉行 伸 （本校 カリキュラム開発グループリーダー）
- 本屋敷隆裕 （同 キャリア支援グループリーダー）
- 吉居 英明 （同 生徒会支援グループリーダー）
- 伊藤 和久 （同 生徒指導グループリーダー）
- 木村 秀樹 （同 管理運営グループリーダー）
- 佐野 英樹 （同 地域連携・広報グループリーダー）

1 委員紹介

2 会長挨拶

3 校長挨拶

4 報告・協議事項《委員○、学校●》

(1) 部会の報告について

(ア) 学校評価部会の報告 第1回生徒による授業評価について

グーグルフォームを使って効率よく集計することができた。各科目で「4 かなり当てはまる」の意見が多く集まった。悪い評価は極めて少ないということから生徒が良い授業を受けられていると思われる。市ヶ尾高校が多方面からよりよい評価がされるように今後も努めていきたい。

○アンケートの結果としては毎年あまり変わっていないという印象。年ごとの評価がどうつながっているのかが知りたい。また、悪い評価が結果に表れていないのでどうなっているのかを知りたい。

○集計の手間はあったか。

●手間はグーグルフォームでだいぶ省けた。悪い評価などのデータとして出していない部分は次回の時に詳細を出す。

(イ) 地域協働部会の報告 新たな地域連携の研究について

新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり大変な時期でもあったがかなり進展はした。

交通安全講話については緊急事態宣言下であったため「スケアード・ストレイト」は来年度に延期した。今年度は、代替として本校独自で動画視聴（自転車乗車）等を行った。また、あおば支援学校や桐蔭横浜大学との連携など学校間でつながりができるようになった。成年年齢の引き下げに伴い3月に消費者教育に関する講習会を行うなど、今までにない取り組みを行っていく。

○生徒の「やりたいこと」について考えられる活動をさせてほしい。何をやりたいのかが明確にならずに苦勞している生徒もいるため、高校生のうちからサポート体制を整えていただきたい。

○連携事業に関して、学校が主体となって活動するものが多いため、生徒が主体でやれる活動を増やしていただきたい。

(2) 学校からの報告について

●総合的な探究の時間が新型コロナウイルス感染拡大の影響であまり出来ていない。しかし、総合的な探究の時間の指定校期間3年延長になったため努力したい。

●進路指導においては第三者評価で進路講演会や生徒への情報の提供など取り組みを評価された。課題として進路助言がどれほど生徒個人に伝わっているのか、公立校のため人事異動などの引継ぎをうまく行えるかなどが挙げられた。

- 新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり ICT を使用した授業への取り組みが進んだ。本校ではプロジェクターとスクリーンを使用して授業内容を生徒に提示するなどの授業が行われている。今後は、生徒が主体となって ICT を活用した授業ができるように努める。
- 学校運営協議会で建設的な意見がもらえていることを第三者委員会で評価された。
- 本校の学習指導の課題である「アットホームな雰囲気」を維持しながら生徒が熱心に学習に取り組む姿勢を養うこと、汎用的な資質能力を育成することの2点について積極的に取り組んでいく。また、個々の教職員が開発した「グッドプラクティス」を共有していくことで ICT を活用した授業を改善していきたい。
- 教員へのヒアリングは総括教諭が対応している
- 生徒へのヒアリングでは、受験に必要な教科か不必要な教科かで授業態度が変わる生徒がいることが課題として挙げられる。
- 総合的な探究の時間において、地域と関わる活動が少ないため増やしていきたい。
- 「スクール・ポリシー」は現在作成中であるため完成次第報告をする。
- 総合的な探究の時間の指定校として活動計画を別紙3のとおりに提出したが新型コロナウイルス感染拡大の影響もありあまり取り組めていない。総合的な探究の時間の指定校として新たに3年間追加で指定されたため次年度以降は計画表通りに活動できるように努める。
- 耐震工事の関係で8月下旬に現1、2年生についてはプレハブB棟（グラウンド側）に移動した。プレハブA棟（旧ハンドボールコート側）には特別教室関連の教室が移動した。また、11月から来年の7月まで南棟の工事を行い、年末にかけてプレハブ棟の確認をする。確認が終了次第、中央棟や管理棟などの工事を行う予定である。
- 購買はどこに移動したか
- プレハブA棟の1階に移動した。
- 総合的な探究の時間はとても良い活動だと思う。しかし、これを学校内だけでやることは教職員の負担が大きいのではないか。例えば、教員免許を持ってない人でも活動できるものがあれば分担できるのではないか。また、県職員からの報酬などはあるのか。
- 報酬として年間約10万円頂いている。その中で株式会社トモノカイにて教材を購入することで情報提供を得ている。本来は生徒の知りたいことを資料だけで情報を集めるのではなく、現地へ出向いて情報収集をさせるようなフィールドワークを行いたい。新型コロナウイルス感染拡大も落ち着き始めているのでそのような活動にも取り組みたい。
- 学校の問題を学校内で解決してしまっているように感じる。地域住民や卒業生、PTAなどを活用してはどうだろうか。また、報酬などに関しては企業から援助やまなびや基金を活用してみるのもよい。教育活動はどうしてもお金がかかってしまうので自分たちの活動を説明して寄付してもらうことが大切である。

○校外での活動については新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、校内の活動が増えた。しかし、ICTを活用し、企業との連携など校内での活動で地域との関わりを大切にしたい。

○学校の耐震工事についての情報は受験生などにどの程度説明しているのか。

●学校説明会などで説明をしている。

(3) スクール・ミッションの再定義について

●別添1に沿って報告。

○地域の実情を踏まえとあるが、現状どのような手段で把握しているか。

●現状は地域の区役所、学校などと連携しながら情報を集めている。これからは自治体とも連携していきたい。

○連合町内会など、必要であれば呼びかけ可能である。

(4) その他

○他校の人たちと話し合うことで解決することがある。現に昔はPTA会長会という集まりで話し合うことで解決できた。小さい集まりで良いのでそのような活動を入れてもいいだろう。

5 その他 次回の開催日の確認

令和4年1月28日(金)